

# 街なみ瓦版

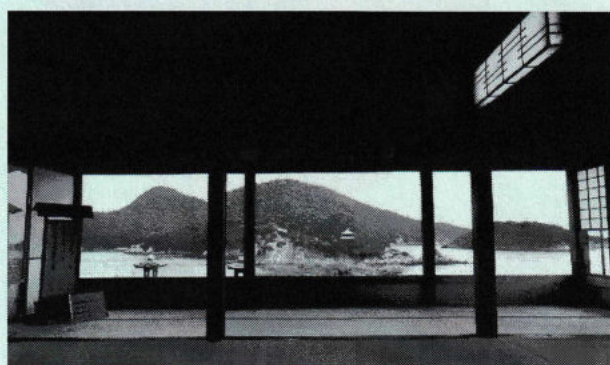
令和8年度 第1号

## 鞆の浦・尾道 視察報告

戸次本町街づくり推進協議会  
会長 石井鏡成

昨年、まちづくり支援事業の一環として、尾道で活動する若者の皆さんが戸次本町を訪れ、私たちと交流しました。その熱意のある活動に触れ、港町として再生を遂げた「鞆の浦」とあわせて学びたいと考え、今回の視察を実施しました。

「瀬戸内の島々に囲まれた**鞆の浦**は、江戸期の港湾施設が現存する国内唯一の港町です。」潮待ちの港として繁栄した往時の豪商屋敷や町家が今も残り、近世港町の面影と人々の暮らしが自然に溶け合っています。単なる観光地ではなく、生活の営みの中に歴史が息づく町であることが強く印象に残りました。



福禅寺 対潮楼

24年前（平成14年）、故・十時会長をはじめ有志の方々が「全国町並みゼミ・鞆の浦大会」に参加しました。当時は港湾埋立架橋計画を巡り、町を二分する激しい対立の最中にありました。計画は大臣承認を受け、都市計画も策定されていましたが、歴史的・文化的景観への重大な影響が強く懸念されていました。

そのような状況下で開催された全国町並みゼミでは、鞆の浦港湾埋立反対の緊急アピールが採択され、問題は全国に広く知られることとなります。同年にはイコモス（国際記念物遺跡会議）で「鞆の浦の景観保全」を求める決議が採択されています。

その後も長い年月にわたり対立と議論が続きましたが、全国の有識者や保存団体、多くの支援者の協力が広がり、さらに時代の流れも後押しとなって、2020年（令和2年）、港湾埋立架橋計画は取り下げられました。

住民の郷土への強い想いと粘り強い行動が、町の未来を守ったのです。苦難の道のりを経て、現在の鞆の浦では歴史的建物の再生が進み、新たな店舗やゲストハウスが増え、移住者も増加しています。穏やかな賑わいを取り戻しつつある町の姿に、住民主体のまちづくりの確かさを実感しました。

規模や歴史的資源の厚みにおいて私たちの町とは異なりますが、「未来をどう選ぶか」を住民自身が問い続けた姿勢は、何よりの学びでした。



千光寺公園に建つ田能村竹田の銅像

尾道では、市職員で歴史に造詣の深い奥忠直氏にご案内いただきました。戸次と尾道の歴史的つながり、地形と町の成り立ち、文化人の往来など、地元ならではの視点で詳しく解説していただきました。

豊後南画の祖、田能村竹田は弟子・帆足杏雨を伴い、京都に頼山陽を訪ねる途上で尾道に度々滞在し、多くの文人墨客と交流しました。千光寺公園に建つ竹田の立像は、その文化的交流の豊かさを今に伝えています。

### 空き家の再生

24年前に訪れた際には空き家が多く、商店街はシャッター通りの印象がありました。しかし今回は、平日にもかかわらず住民や観光客で賑わい、飲食店やゲストハウスが軒を連ねていました。移住者や観光客の増加により人の交流が生まれ、新しい情報を発信する町へと変貌を遂げていました。

・・・・・・終わりに・・・・・・

鞆の浦も尾道も、歴史を単に保存するのではなく、「暮らしの中で生かす」町でした。長い時間をかけて守られてきた景観の背景には、住民の覚悟と継続的な努力があります。

条件は異なりますが、町の未来を決めるのは、そこに暮らす私たち自身です。今回の学びを糧に、戸次らしい歩みを着実に重ねていきたいと思います。

## 鞆の浦・尾道 視察報告

「大分県産竹炭 KAGUYAHIME LABEL」 代表 岩尾 佳奈

私は、竹林整備をした竹を活用したサスティナブルプロダクトの製造・販売をする「かぐやひめレベル」として、先輩や仲間たちと活動をしています。また、この大南地域・戸次本町の歴史的な建物の街並みを活かした賑わいの復活を創造するチーム「在戸蔵（アルトクラ）」のメンバーでもあります。

### 戸次本町の街づくり活性化に向けた学びを深めるため

広島県尾道市を視察する機会をいただきました。以前より、尾道を高く評価する声を耳にする機会が多く、その魅力を自ら確かめたいとの思いも抱きながら、初めて現地を訪れました。

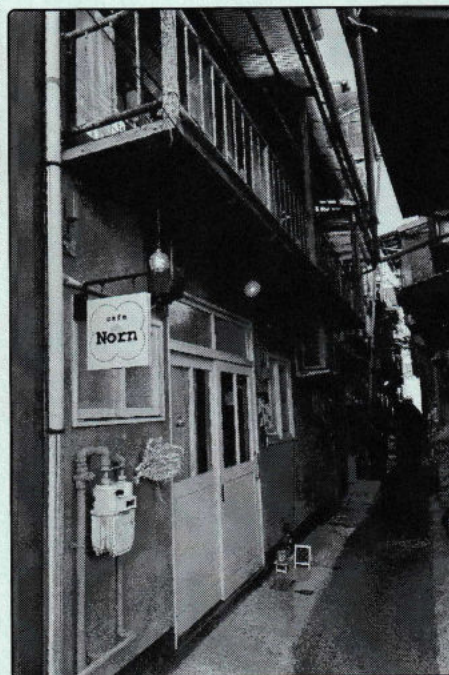
### 現地を訪れてまず一番に感じたのは

街全体に漂う穏やかで豊かな心地よさでした。海や歴史ある街並み、地元の食材、地元根差した商店など、要素だけを見れば大分市・戸次本町にも共通する魅力は数多くあります。しかし尾道では、それらが調和し、暮らす人々の想いによって大切に守られていることが、独自の空気感を生み出していると感じました。地域の方々が主体的に景観や営みを選び取り、共有している姿勢は、これからの街づくりを考える上で大きな示唆となりました。



### ◀▼ゲストハウスや地元の方が営む店舗を視察

単に観光客を「呼び込む」という発想にとどまらず、訪れた方が自然と地域の人と出会い、会話を交わし、時間を共有できる空間・雰囲気づくりが自然と丁寧に育まれている点に可能性を感じました。滞在そのものが思い出となり、「また来たい！次回は…」と再訪へとつながる循環が自然と生まれていることは、大きな学びでした。



### 戸次本町には

子どもからシニア世代まで多世代が暮らし、日常の中で温かな交流が育まれている確かな強みがあります。この地域性を生かし、人と人とのつながりを軸に据えたおもてなしの場や、滞在空間を創出することができれば、地域の日常に触れられる新しい観光のかたちを提案できるのではないのでしょうか。「魅力的な人に会える、環境が体感できる、訪れたい街」として、地域の魅力はさらに高まり、持続的ににぎわいへと発展していく可能性を感じています。



### 最後に

今回の視察では、広い世代の参加者がともに学び、意見を交わしました。立場や経験の異なる方々との対話は新たな視点をもたらし、地域内の連携の重要性を改めて実感する機会となりました。本視察で得た気づきを共有しながら、戸次本町らしい未来像を描き、形にしていきたいと考えています。

このような貴重な機会を頂けたことに感謝いたします。有り難うございました。